

4章3節 コミュニケーションシート

林 秀樹

4章3節1 教材の位置づけとねらい

英語の教科書の本文を読む活動が単調になってしまい、どうしたらよいのかという声を聞くことがあります。私も同じ悩みを抱えていました。そこで作ったのがこのコミュニケーションシートです。これは生徒たちに何を教えるのかだけでなく、生徒が本文を読んだときに何を大切だと感じているか、どんなことに疑問を感じているかを引き出すために作りました。

1 どんな課題を感じていたか？

- 英語の本文を読む活動が、本文の英文の意味がわかる（英文を日本語に訳す）ことで終わってしまい、内容について考えることが少ない。
- 教師からの説明や解説を聞くことで終わり、自分で理解していく力がついていない。
- 協働的に学ぶ機会があまりつくれていない。
- 生徒たちが自分で意見や疑問を持つ機会があまりつくれていない。

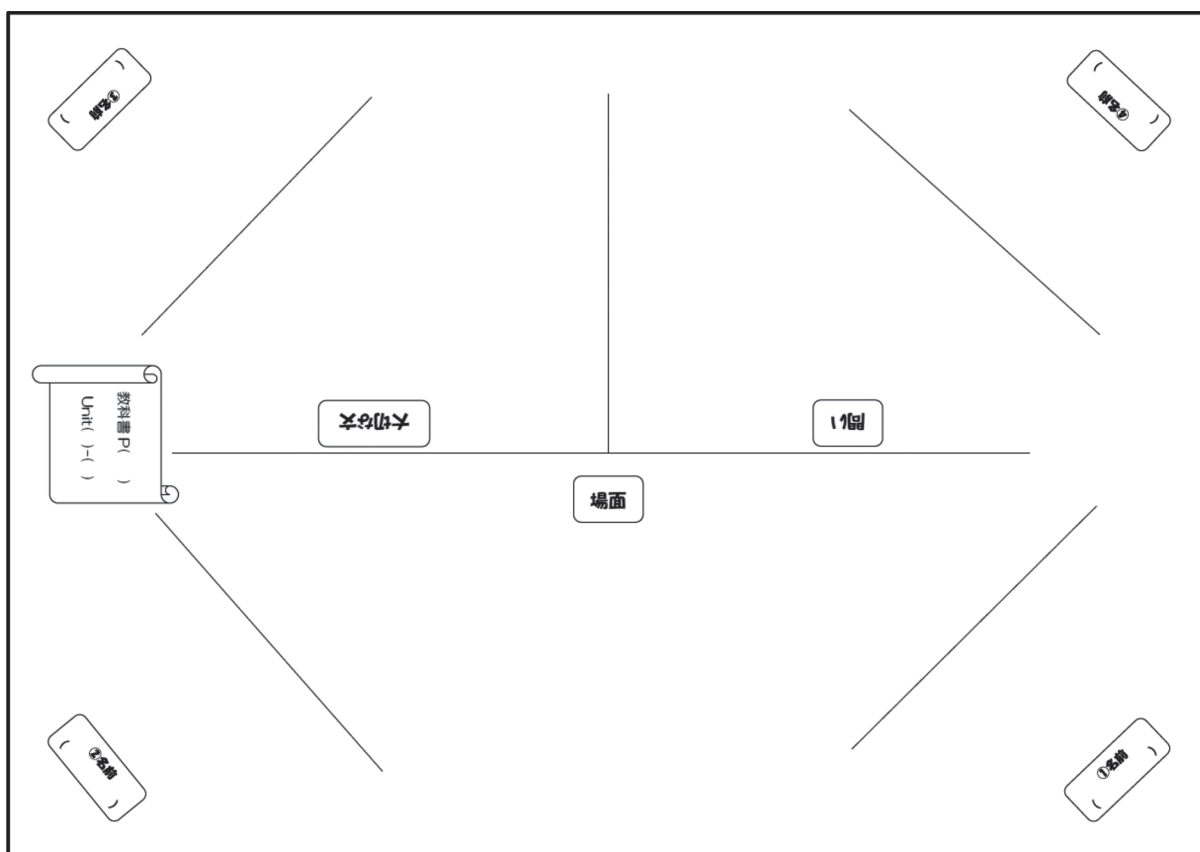
2 解決するために何を開発したか？

コミュニケーションシート

本文の内容を理解し、問いを作ろう。

ルーブリック

	Ideas	Connections	Extensions
英語運用能力（教科・科目に特有の知識・技能）	本文の内容を聞き、概要について、メモをとりながら、理解できる。	本文の内容を読み、聞き、得た情報から状況や人物像などを推測できる。	本文の内容を読み、聞き、得た情報から、内容や英語について疑問や大切なことを見つけ出すことができる。
コミュニケーション（教科・科目に特有の見方・考え方）	「聞く」という機能を生かしたコミュニケーションをする。	「聞く」「読む」という2つの機能を生かしてコミュニケーションをする。	出てきた疑問や課題を見つけられるように「聞く」「読む」の機能を生かしてコミュニケーションする。
多様性の認識と活用（汎用的な能力）	自分が得た情報をグループで共有することができる。	得た情報を共有し、違いや疑問を見つける。	得た情報から課題や質問を作り、解決していく自分の取り組みを自己評価する。



3 どのように使うか？

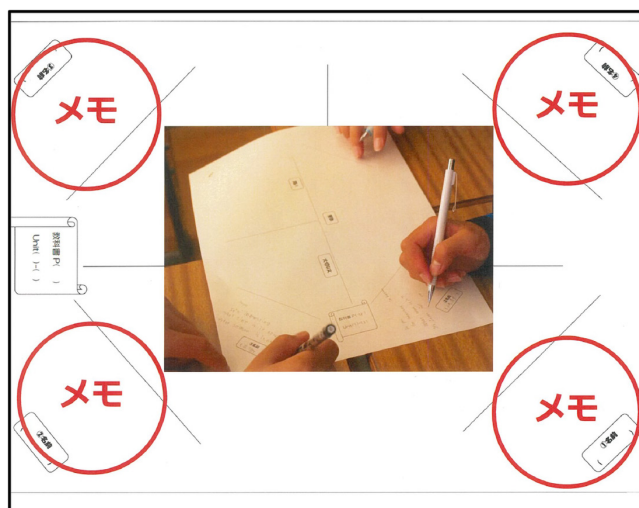
Step 1 場面設定を確認する

はじめに、教科書の挿絵を見せ、登場人物やどんな場面なのか等、この後の聞き取りに必要な情報を英語で確認する。その際、教師は生徒と対話しながら、挿絵に単語や短い語句を書き込んでいく。

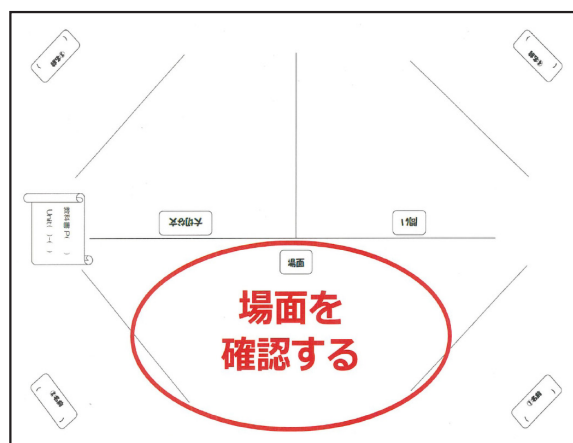
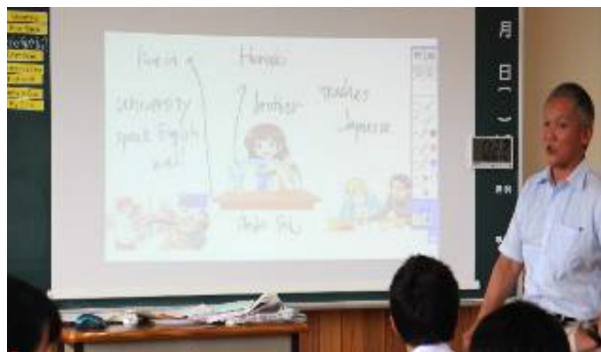
Step 2 本文を3回聞きメモをとる

生徒は本文が3回読まれるのを推測しながら聞き、コミュニケーションシートの四隅のメモ欄に、聞き取った単語や文を記入する。

Step 3 メモをもとに場面を確認する



次に、各自のメモをもとに話の具体的な内容や誰がどんなことを話していたのか等の概要についてグループで話し合った後、シートに場面についての情報を書き込む。さらに書き込んだことを全体で出し合って、場면을共有する。



Step 4 「大切な文」を考える

音読練習を何度か行った後は、コミュニケーションシートに戻り、「大切な文」はどれかについて考える。大切な文とは、

- 既習や本単元で学んだ文法を使った文
- 場面や状況に応じた表現

等である。今まで教師が一方的に教えていた部分を、生徒自身が考えることになる。ここで重要なポイントは「教師の発問の工夫」である。「この文はなぜ大切だと思ったのか」を問いかけ、生徒もそれに答えることで、本文の内容理解を深めていく。

Step 5 「質問」を考える

本文について興味を持ったことや登場人物に対する質問等、日本語や既習の英語を使って、想像し、考えて、発表をする。「質問」を考えると、よりレベルの高いゴールを設定することで、本文の内容をより深く理解できるとともに、本文を読むだけではわからない新しい発見をすることができる。

5 使い方のコツは？

Step2,3では、生徒たちがグループでどのような話をしているかをしっかり見取り、「どうしてそう思ったのか?」、「他には?」など生徒の話が深まるような言葉かけをしていき、生徒自らが発見していく過程を大切にします。

Step4,5では答えのない問い（生徒の考えが一番の重点に来る）なので、生徒の意見を尊重することが一番大切。そのうえで学びを深めるために、その意見の根拠や本人の体験や経験などを引き出す発問をすることが大切。

またこのコミュニケーションシートは今私が勤務している勤務校の所在市の教育研究所と協力して他の学校でも実践を行うこともできました。詳しくは下記のホームページを参照ください。

東近江市教育研究所のホームページ <http://www2.higashiomi.ed.jp/kenkyu/>

今まで教師が「大切な文」やポイントを示し、説明し、それを生徒が聞くというスタイルであった教科書の本文を取り扱う活動が、このシートを使うことで、生徒が主体的に考え、自分たちの意見を言う場面を増やすことができる。

4章3節2 教材の試行

コミュニケーションシートは英語を読む活動にICEを取り入れていく足がかりになる教材で、英語の授業での「読む」活動の目的が「理解する」だけでなく「大切な文を探す」「疑問を持つ」「感想を述べる」「話の展開を予想する」など広げていくことを目指しています。ここではコミュニケーションシートの使い方の応用例を提案します。

「読む＝日本語に訳す？」

英語の本文やリーディングの授業が生徒にとっても教師にとってもあまり面白いものではないものになっているということをよく思っていました。また実際、「新出の表現」を使うゲームのような活動はいろいろな指導法がありますが、本文の扱いは難しいという他の先生からの声もよく耳にしました。これは英語の授業の「読む」ことを目標とした授業では、日本語で意味がわかる（日本語に訳すことができる）ことにだけ重点が置かれていることが原因ではないかと思います。確かに意味がわかることは大事ですが、「読んで（意味を確認したら）終わり」になり、そこからの学びが発展していかないという課題があります。

課題① 「読む」ことの目的が明確になっていない。

課題② 課題解決型の単元構想になっていない。

課題③ 日本語で意味がわかる以外の意味を捉える指導法が少ない。

課題④ 「読む」授業では生徒の意見や考えを取り入れる活動が少ない。

コミュニケーションシートは複数の生徒に読んだ内容について考えや疑問を持たせ、それらを1つのシートに集約し、議論したり、意見をまとめたりすることが目的です。だから教材編では、「メモ」「場面」「大切な文」「問い」と4つの観点で集約するものを紹介しましたが、この観点は「読む」教材によって変えていくことができます。たとえば下のような物語が教材なら、「あらすじ」「疑問」「一番共感できた登場人物」のように変えることもできます。

1. 単元ルーブリック

Further Reading 2 Jimmy Valentine

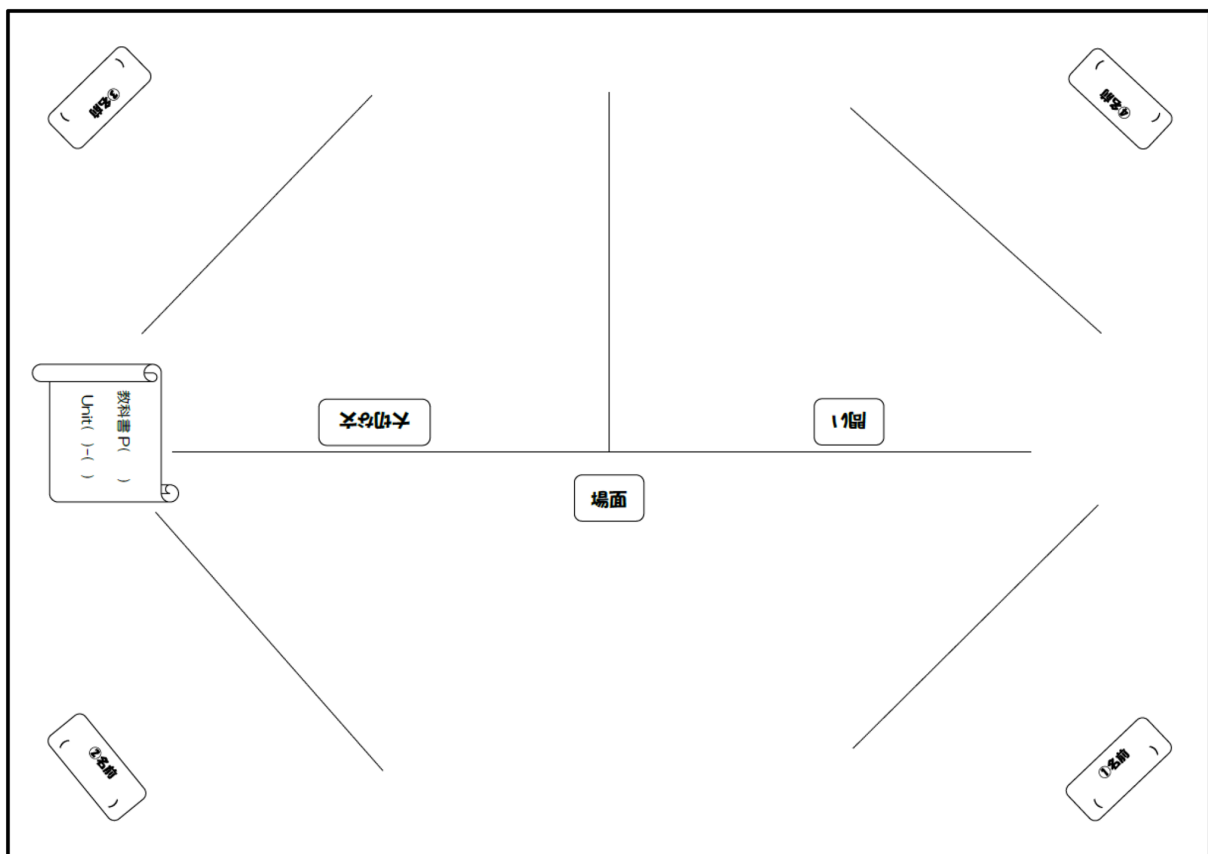
	Ideas	Connections	Extensions
英語運用能力（教科・科目に特有の知識・技能）	既習事項の法則、単語、文法を理解し、正確に意味を捉える。	必要な情報を得て、人間関係や人物像を解釈する。	得た情報から物語の展開を予想し、登場人物の行動の是非について自分の考えを伝える。
コミュニケーション（教科・科目に特有の見方・考え方）	この物語について様々な方法で「読む」ことを通して得た情報でコミュニケーションする。	この物語について得た情報から解釈した内容について英語でコミュニケーション（「話す」「聞く」）する。	登場人物のとるべき行動について自分の意見を構築するためにコミュニケーション（「話す」「読む」「聞く」「書く」）する。

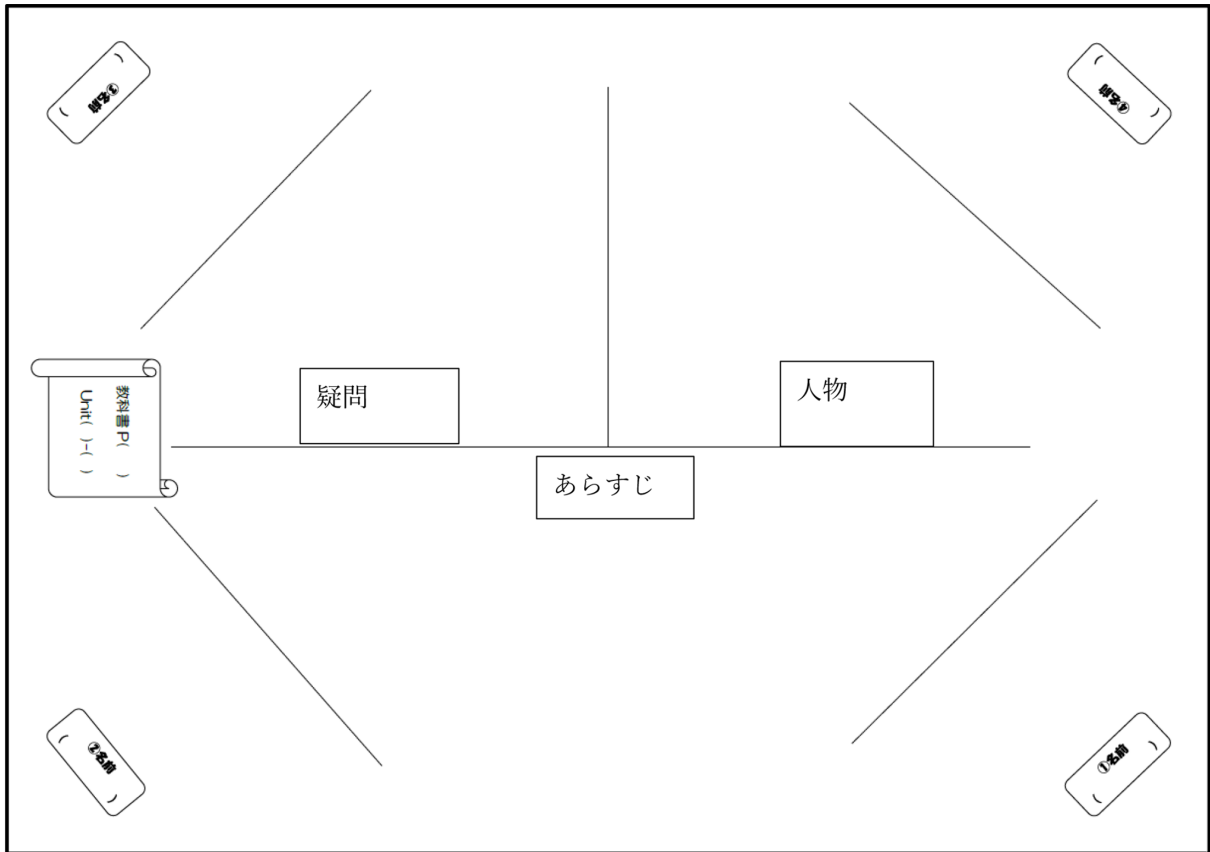
多様性の認識と活用 (汎用的な能力)	コミュニケーションを通して得た情報から文化、個性、意見などが違うことを知り、多様性があることを認める。	コミュニケーションを通して得た多様な意見や情報から、課題や疑問を見つける。	コミュニケーションを通して得た多様な意見や情報から、新しい考えや方法を創造し、他者と協力して課題解決する。
-----------------------	---	---------------------------------------	---



活動ルーブリック

	Ideas	Connections	Extensions
活動	①本文の内容を文法的に正確に読み取り、話の概要についてお互いの情報を交流する。	②読んだ情報をストーリーの展開によってまとめ、登場人物の人間関係や人物像を解釈した内容について英語で共有し、疑問や課題を見つけ議論する。	③登場人物の行動の是非について意見を交流し、ストーリーの続きを予測し、登場人物のとりべき姿について自分の考えを構築する。

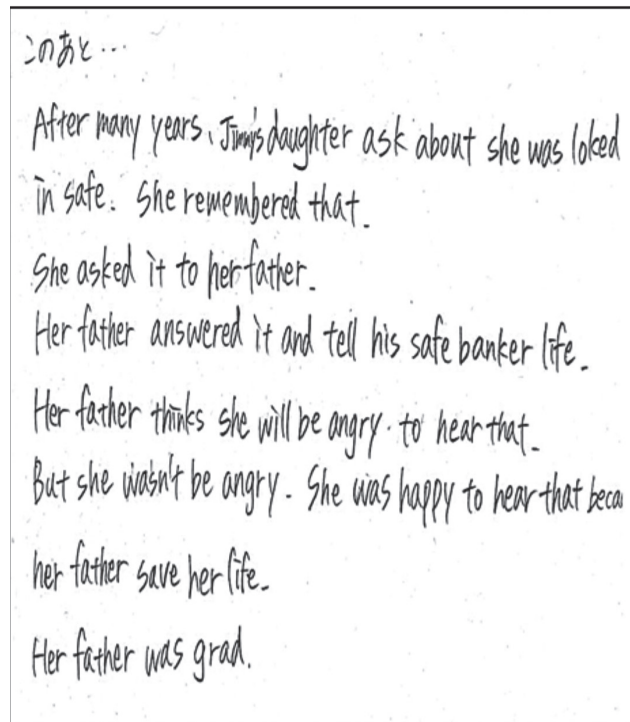




この教材では、Iの段階ではストーリーの流れとその展開を理解させ、Cの段階では登場人物に焦点を当て、登場人物について生徒たちが持った疑問や考えを共有させ、議論させました。そしてEの段階では、この作品のテーマに焦点を当て、このストーリーの後日談を創作させました。



どの段階でもコミュニケーションシートを使うことはできます。この授業をしたとき、受け持っている3クラスすべてで、それぞれのクラスにより意見の分かれ方はかなり違いがありました。これは差ではなく違いです。英語で意味をとるということで差が出てしまうのは問題ですが、読み物を読んでどのように感じるかに違いが生じることは問題ではなく、むしろ当たり前のことです。しかし従来



のように英語の意味をとることだけに捉われた授業ではこのような違いは生まれません。英語を「読む」ことの授業であっても、このような違いを生み出すことができる点がICEの良さだと思います。しかしこれはいきなりできることではないので、このコミュニケーションシートを使い、英語の「読む」活動に生徒の考えや疑問を取り入れていき、読む活動の目的を幅広く捉えるようにしていきたいです。